

被災地 NGO 協働センター2011 年度事業報告

【事業概要】

1. 寺子屋事業
2. まけないぞう事業
3. 災害救援事業
4. 提言(アドボカシー)・ネットワーク事業
5. 広報活動

【事業内容】

1. 寺子屋事業

2011 年度は、東日本大震災の救援活動に手一杯でなかなか寺子屋事業を企画できなかったが、直接に救援活動に関わっていない福島のことを考える為の寺子屋を実施した。

- ・寺子屋セミナー4 回シリーズ(3 回、4 回は 2012 年度)

「福島の再生のために”フクシマ”と向き合おう！」

第 1 回(2/21) 「水俣から福島へ」

講師: 谷洋一(アジアと水俣を結ぶ会事務局長/水俣病被害者互助会事務局長)

第 2 回(3/18) 「自然と共に生きる自給自足の暮らし、そこに訪れた原発災害」

講師: 大塚愛(子ども未来・愛ネットワーク代表)

* 残り 2 回は新年度事業計画に掲載

- ・寺子屋特別編 「ひとりの修行僧として」(12/11)

講師: 鈴木隆太(曹洞宗僧侶)

2. まけないぞう事業

1997 年から始まったまけないぞう事業は、2004 年の新潟県中越地震、2007 年の新潟県中越沖地震、同年能登半島地震、2008 年の宮城・岩手地震、2008 年中国四川省地震などで再注目を浴びたが、ここ数年は横ばい状態だった。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の被災地では、遠野の民家を拠点にまけないぞう事業を展開した。遠野市内の婦人グループ「ふきのとう」などの応援を受け広範囲(岩手県釜石市、大船渡市、陸前高田市、大槌町、宮城県気仙沼)に伝授した。この阪神淡路大震災から 17 年にわたって継続してきた、まけないぞう事業は、その後生まれた幾つかの被災地グッズの模範となった。(余談だが、あまりにも人気があるので模造品(名前は「がんばるぞう」)まで出た)。

3 月までに、作り手さんは 60 名に上り、まだ増えつつある。一方、避難先の米沢や新潟で作り方を習って福島に戻った方、宮城県で講習を受けた方など福島・宮城の作り手さんも 10 名ほどおられる。被災地で広がるまけないぞうが新聞、テレビなどで取り上げられ、注目を浴び、全国から注文が殺到し、一時期は生産待ちの状況だった。しかし、3 月以降は注文が少なくなり、生産過多気味なので、販売戦略を考える必要がある。

ところで、まけないぞうの作り手さんからの生の声を聴く

と、ほんとにこのぞうさんによって、心が癒されていることがわかる。このことは、近いうちに心のケアを専売特許として精神科医や臨床心理士、保健師、カウンセラーなどに大きな影響を与えるだろう。

また、タオルについても全国から大口を含めた寄贈頂き、まけないぞう生産に対するタオル不足はほとんどなかった。この大量のタオルを保管、仕分け、発送するのに場所と人手のボランティアを申し出て頂いた「TPO ディスプレイズジャパン」(本社・台湾)の活動がなければ、まけないぞう事業は回っていかなかったことを付け加えておきたい。

また、まけないぞうの応援団ができ、makenaizone という独自の HP<<http://www.makenaizone.jp/>>まで作っている。このメンバーは海外在住の方や海外出張する方が多く、まけないぞうが海外に飛び立つ強力な助っ人である。

なお、増島が遠野に在住してまけないぞう事業を進めたのはシビックフォースとのパートナーシップ協力プログラムとして資金援助を頂いたからである。このプログラムではもう一人専門家として末村祐子が遠野で助言・提言活動に従事した(2011 年 10 月からは大槌町の復興局特別顧問)。

・実績: 37,662 頭出荷(うち子ぞう・親子ぞう・リングぞうは 867 頭)

- ・作り方講習(岩手県は省く)

5/7 明舞団地(支援者への講習)

10/10 石巻(村井)

10/11 南三陸(村井)

11/16 石巻・開成第 3 団地(村井)

11/29 大阪(県外避難者への講習、村井)

12/17 ちばコープ地域サポーター(支援者への講習)

2/18 岡山(県外避難者への講習、村井)

2/26 若駒ケアサービスの災害研修で講習(東京)

3/25 福岡(支援者への講習、村井)

- ・報告会等

5/3 自治労憲法集会(兵庫)

8/27 JTB ボランティア研修会(遠野)

9/11 まごころネット東京報告会(東京)

9/21 TPO への報告会(協働センター事務所)

9/25 大阪市今川避難訓練(大阪)

9/28 makenaizone メンバーへの報告会(東京)

11/12 日本女医会にて講演会(東京)

12/16 ちばコープの理事会で報告(千葉)

3/28 「まけないぞう基金」推進・研究 group 研究会

3/28 四川省被災地交流会の受入

- ・イベント等での販売

6/13 ラッシュ・ジャパン チャリティ発表会(東京)

10/25 東京国際女性映画祭(東京)

10/28~29 「いきいき」でのイベント販売(東京)

3/5 生命賛歌(久喜市)

3. 災害救援事業

1) 国内災害に関する救援・復興・提言活動

(A) 東日本大震災

東日本大震災は、2011年3月11日の発生のため、わずか2週間余りで新年度に入る。従って昨年1年間は、何をおいても東日本大震災支援に全力を注いだ。まず米沢に避難してきた福島からの避難者支援を「クラブ生協やまがた」との連携で行った。同時に6月はじめから岩手県遠野市に民家を借り受け、長期戦の態勢に入った。

一方、日本財団ROADプロジェクトの岩手県拠点として遠野市内に設置したボランティア宿泊所「まごころ寮」を静岡ボランティア協会と共同で管理運営体制に入った。この拠点で、「KOBE足湯隊」や「不良ボランティアのボランティアパス」を受け入れ、サポートして来た。この動きは、早くにNHKにも放映され、大災害時の「後方拠点」の大切さを、強く社会にアピールした。

なお、ROADプロジェクトにスタッフ二人を1年間出向させる。

*ROADプロジェクト内の「仮設住宅支援連絡会」には毎月出席。(6/20、7/13、8/23、9/12、10/11、11/18、12/20、1/24、2/28、3/26)

■山形県米沢での活動

4月～9月末まで、神戸大学生一人を派遣。CODEから出向してもらった吉椿雅道は、適時応援に入る。

*吉椿雅道のサポート(8/2～9/5、12/20～25)

(B) KOBE 足湯隊の活動

当センターが事務局を努める「KOBE足湯隊」(中越・KOBE足湯隊を改め)は、主に能登半島(2007年地震発生)・兵庫県佐用町(2009年水害発生)・和歌山県那智勝浦(2011年水害発生)などと地震や水害の被災地に出かけている。同足湯ボランティアは、2010度から神戸学院大学を初めとする「ポーアイ4大学連携事業」として、佐用町へ15人程度の大学生(神戸大学、神戸女子短期大学、神戸学院大学)が年に数回入っている。東日本大震災では、発生直後から当センターのスタッフと共に1、2名が東北に入り、直後の避難所で足湯ボランティアを行った。その後、随時、神戸大学のボラバスで東北に入り、仮設住宅でも足湯を行っている。

集めたつぶやきを分析して心のケアや復興のあり方についての提言につなげる試みで「つぶやき研究会」を立ち上げた(JR西日本あんしん社会財団の助成)。

日本財団ROADプロジェクトと震災がつなぐ全国ネットが協力し、東京から足湯隊を送り出している。「昨年3月から1年、約130クール、のべ1500人のROAD足湯ボランティアが被災地で活動を行いました。」とのこと。約1万のつぶやきを集め、東大のグループによる分析が始まり注目されている。

- ・ミーティング:5/12、6/9、7/7、8/5、9/11、10/3、11/17、12/15、1/10、2/14、3/19
- ・足湯ボランティア新人講習会(4/17)
- ・東北派遣:4/25～5/3
- ・能登派遣:8/16～18
- ・お熊甲まつり参加(9/18～9/21)
- ・佐用町派遣:6/26、2/15(ポーアイ4大学連携)
- ・足湯大会(於東京) 12/3・4
- ・その他の足湯派遣
 - 7/31 岸和田・土生神社
 - 10/26 コープ姫路で足湯講習
 - 12/3・4 全国足湯ボランティア交流会(東京)
 - 1/29 イザ!カエル大キャラバン in サンボーホール
 - 3/21 金沢病院
 - 3/24 足湯ボランティア養成講座(国東高校)
- ・つぶやき研究会:5/26、6/15、7/27、8/26、9/30、10/28、11/11、12/16、2012/1/20、2/16、3/1

(C) 佐用町での活動

佐用町の復興支援として、2011年度は、トヨタ財団の助成を受け、佐用町奥海地区で「兵庫県佐用町の山林整備を通して地域における学びの場、育ちの場を形成する人材育成プログラム」を実施した。これはふれあい喫茶・足湯活動・フィールド研修・座学・木工教室などの活動を「奥海の森 地元学実践塾」のプレ講座として捉え、奥海で暮らす住民との関係醸成を重点課題とするものである。しかし、実施直前に東日本大震災が起り、担当予定のスタッフや講師が震災救援にかかりきりになったので、新メンバーでプログラムを縮小しての実施となった。また、2011年度、2012年度の2年間の助成を申請していたが、2011年度で終えることにした。

- ・ふれあい喫茶(足湯含む):5/18、6/15、6/26、7/19・20、8/17、10/19、2/15
- ・フィールド研修(基礎講座):7/22、8/7、10/17、11/13、12/18(講師は安本さん)
- ・座学:8/7(講師は松本誠さん、庵迫町長)8/17(講師は佐用町社協の江見さん)
- ・木工教室:8/18(講師は森谷さん)
- ・山林整備は随時
- *ボランティア感謝のつどい(佐用)で講演(8/21)
- *佐用の炭を石巻中央公民館住吉分館に運び、床下に蒔く(6/29)

(D) 和歌山水害支援

9月には、台風12号の影響による豪雨災害が、奈良・和歌山・三重を襲い、大規模な深層崩壊を招く土砂災害となり、甚大な被害となった。当NGOのスタッフほとんどは東日本に投入していたため、大きな支援を展開できなかったが、コツコツと支援に入り続けた「KOBE足湯隊」の活動をサポートした。尚、災害発生2日後には新人スタッフ福岡洗介を現地に派遣、最初の足湯隊のフィールドをコー

ディネートした。

また、「KOBE 足湯隊」の和歌山での足湯ボランティアの財政的支援

・和歌山派遣：9/14・15、9/24・25、10/15・16、11/5・6、12/9
・10、12/26・27、1/21・22

(E)平成 23 年度東海地震に備えた災害ボランティアネットワーク

静岡県で開催している「東海地震などを想定した広域連携図上訓練」(2011 年で 7 年目)のリーダー的役割として今年もワーキンググループから参画し、スタッフの頼政も若手リーダーとして準備段階から参画した。尚 CODE スタッフの上野も浜松出身でもあることから参加させた。

広域図上訓練－静岡(3/3、4)

委員会(10/21、11/16、12/19、2011/1/23、2/10(熱海)、2/16)

(F)震災がつなぐ全国ネットワーク

・震つな総会・東京(5/21)、移動寺子屋・東京(5/22)
・震つな総会・東京(11/27)
・震つな移動寺子屋「被害軽減」in 新宮(11/23)

2) 海外災害に対する緊急救援活動とその後の復興へつなげる支援活動

当センターは CODE 海外災害援助市民センターの事務局をサポートしながら、震災の経験を伝え、痛みの共感をし、お互いに学び合い、海外の災害救援を通して、支えあいの輪を広げてきた。2011 年度は東日本大震災にかかりきりで、むしろ CODE からスタッフ 2 名を半年間出向していただき、集まった募金も全額寄贈して頂いた。支えて頂いたことに感謝したい。

4. 提言・ネットワーク事業

すでに触れたが、一つは岩手県遠野市での初期の活動が、広域・巨大災害時の「後方支援」の意義を見出し、NHK が再々放映したことも手伝って、社会に大きなインパクトを与えた。二つ目には、阪神淡路大震災から継続してきた足湯ボランティア活動とまけないぞう事業が、この被災地でも展開され、どちらも注目を浴びた。中でも、すでに触れたが足湯活動から集めた「つぶやき」は 1 万件に達し、東京大学被災地支援ネットワークとの連携で、これを分析し、政策提言に繋げる試みに挑戦してきた。一方、「つぶやき」を聞いたその時点で現場に返すために、地元行政、社会福祉協議会、生活支援相談員などを交えて、どのように「つぶやき」を生かすかの検討が始まった。(宮城県七ヶ浜)

三つ目は、まけないぞうや足湯を通しての被災者の生の声に耳を傾けると、明らかに「心のケア」の役割をしている。このことは今後、精神科医、臨床心理士、保健師、カウンセラーなど専門家に大きな影響を与えるだろう。ただし、このことはすでに 17 年前の阪神淡路大震災後に設置された

「ひょうご心のケアセンター」初代所長中井久夫先生が予見していたことである。四つ目に 7 年前から続いている「東海地震等に備えた図上訓練」から生まれた「災害ボランティアネットワーク」によって、災害時に被災地に置いて、ボランティアと地域、ボランティアと社会福祉協議会、ボランティア＋地域と行政、ボランティア＋地域＋行政と政府などを「つなぐ」役割をする「リエゾン・キーパーソン」が育ち、東日本大震災で大活躍。このリエゾン・キーパーソンの存在が大きく注目されるようになった。ちなみにこのリエゾンチームは、20 代～40 代前半の若者で構成されている。

(A) ネットワーク事業

- ・日本災害復興学会理事会(4/4)
- ・しみん基金理事会(5/11)
- ・震つな総会(5/21、再掲)
- ・ROAD プロジェクト「足湯フォーラム」に参加(5/22)
- ・静岡県ボランティア協会総会で講演(5/29)
- ・神戸大学学生支援 GP 運営委員会(6/6)
- ・全日本仏教婦人連盟総会に出席(6/8)
- ・関西学院大学で講義「災害ボランティア」(6/10)
- ・神戸大学総合教養科目「阪神・淡路大震災」で講義(6/14)
- ・しみん基金理事・審査員合同会議(8/19)
- ・日本災害復興学会 2011 年度臨時総会(10/9)
- ・神戸大学総合教養科目「阪神・淡路大震災」で講義(10/12)
- ・全日本仏教婦人連盟 第 58 回大会に出席(10/18)
- ・ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク運営委員会準備会(10/21)
- ・神戸大学学生支援 GP 総括シンポ(10/22)
- ・しみん基金公開審査会・理事会(10/31)
- ・静岡ネットワーク委員会(11/16、再掲)
- ・震つな寺子屋 in 新宮(11/23、再掲)
- ・震つな総会(11/27)
- ・全国足湯支援ボランティア交流会 in 東京(12/3・4)
- ・静岡ネットワーク委員会(12/19、再掲)
- ・神戸大学学生支援 GP 運営委員会(12/21)
- ・日本災害復興学会理事会、被災地交流会(1/9)
- ・静岡ネットワーク委員会(1/23、再掲)
- ・全日本仏教婦人連盟 新年修正会に出席(2/10)
- ・静岡ネットワーク委員会(2/10(熱海)、再掲)
- ・静岡ネットワーク委員会(2/16、再掲)
- ・東海地震に備えた災害ボランティアネットワーク 広域図上訓練に参画(3/3・4)

(B) 報告会・講演活動

- ・よのなかカフェ「大震災、神戸の私たちにできることは」で講演(4/7)
- ・立正大学「東日本大震災被災地 NPO 支援フォーラム」で講演(4/24)
- ・堺自由の泉大学開校式記念シンポジウムで講演

(5/15)

- ・TBS ラジオ・ニュース探求ラジオ「Dig」に電話出演 (5/17)
- ・NHK「ニュース神戸発」に出演 (5/19)
- ・兵庫測量設計業協会イベントで講演 (5/28)
- ・地球対談ラボ「被災地の生きがいと仕事づくり」の収録 (6/7)
- ・孤立死防止有識者会議(厚生省)に出席 (6/12)
- ・鈴蘭台食品セミナーで講演 (6/15)
- ・「民ボラ・バスで行く！学ぶ・議論する～災害時のボランティアの心・技・体」で講演 (6/18)
- ・「災害ボランティアコーディネーター養成講座」(浜松)で講演 (7/2)
- ・『日本』復興へのシナリオ～被災地域の自立に向け、今私たちにできること(高松)で講演 (7/5)
- ・部落解放第43回東日本研究集会(水上)で講演 (7/6)
- ・大阪市東住吉区防災フォーラムで講演 (7/10)
- ・日本ソーシャルインクルージョン推進会議「被災から広がる生活困難への支援と復興のための協働を考える」で講演 (7/24)
- ・大阪府准看護学校教務主任会「東日本大震災から学ぶ～協働の意味」で講演 (7/30)
- ・土生神社「東日本大震災支援報告会&足湯ボランティア研修会」で講演と実習 (7/31)
- ・津川岩手県現地対策本部長とボランティアの復旧・復興への緊急懇談会 (8/2)
- ・伊丹公民館「ボランティアが見た被災地の現状と支援のあり方」で講演 (8/4)
- ・ひょうご防災リーダー(三木)で講演 (8/5)
- ・トーク”雅楽の夕に”(大崎八幡宮)に出演 (8/13)
- ・ひょうご防災リーダー(洲本)で講演 (8/20)
- ・ひょうご防災リーダー(太子町)で講演 (8/27)
- ・災害看護学会「災害看護の原点にたち未来を拓く」で講演 (9/11)
- ・神奈川サポートセンター「災害ボランティアの心構え」で講演 (9/13)
- ・たつの市御津文化センター「東日本大震災から学ぶ」で講演 (9/16)
- ・ピースフェスティバル「東日本大震災が私たちに問いかけること～被災地神戸で考える」で講演 (9/17)
- ・災害ボランティア活動推進フォーラム(敦賀)で講演 (9/23)
- ・東住吉区避難所運営講座で講演 (9/25)
- ・とんだばやし人権セミナーで講演 (9/27)
- ・シビックフォース「アジア太平洋災害対策サミット」で講演 (9/29)
- ・東住吉区「避難所運営について」で講演 (10/23)
- ・新富町生涯学習推進町民大会で講演 (10/30)
- ・神戸大学医学部大倉山祭シンポジウムで講演 (11/3)
- ・兵庫県立大学防災教育センターで講義 (11/15)
- ・岐阜県部落解放同盟・開放講座で講演 (11/21)
- ・NPO 活動推進自治体フォーラム全国大会 in 奈良でパネラー (11/24)
- ・福井大学「災害ボランティア講座」で講義 (12/1、12/8、12/15、12/22)
- ・部落解放同盟岡山県支部「一人ひとりに寄り添う後方支援」で講演 (12/7)
- ・NHK ハートフォーラム「東日本大震災これからのボランティア」(豊田市)でパネラー (12/10)
- ・近畿大学「東日本大震災とボランティア」で講義 (12/13)
- ・洲本高校「災害ボランティアのあり方～釜石の奇跡から学ぶ」で講義 (12/14)
- ・「共生・地域文化大賞」受賞式 (12/24)
- ・「久高オデッセイを観る会」を共催 (1/13)
- ・堺自由の泉大学で講演 (1/15)
- ・MBS ラジオ「たね蒔ジャーナル」に出演 (1/16)
- ・KBS 京都ラジオに出演 (1/17)
- ・災害対策セミナー in 神戸「巨大災害に備える防災・減災のネットワークづくり」でパネラー (1/21)
- ・横浜市民活動センターボランティアフェスタ「子どもも大人も安心して暮らすために」前夜祭で講演
- ・「災害ボランティア講座」(福岡)で講演 (2/25)
- ・「災害ボランティア養成講座」(多可町社協)で講演 (3/7、3/14、3/21)
- ・上宮川公民館「震災と支援を考える～あの日から1年を振り返って」で講演 (3/10)
- ・「大震災”あの時”の教訓、”その時”の備え」(守口)で講演 (3/20)
- ・「足湯ボランティア養成講座」(国東高校)で講演と実習 (3/24、再掲)
- ・大分県玖珠町・地域福祉会「東日本大震災～私たちにできること」で講演 (2/25)
- ・黒田庄町人権協議会「ボランティア何でもありや！～災害ボランティアの心構え」で講演 (3/31)

<関係団体・グループとのネットワーク>

- ・しみん基金 KOBE/副理事長
- ・震災がつなぐ全国ネットワーク/顧問
- ・人と防災未来センター/事業評価委員
- ・神戸再生フォーラム/共同代表
- ・レスキューストックヤード/評議員
- ・21世紀まちづくり賞選考委員
- ・CODE 海外災害援助市民センター/理事・事務局長
- ・日本災害復興学会/副会長
- ・関西学院大学災害復興制度研究所/外部研究員
- ・神戸大学非常勤講師
- ・神戸大学・学生支援 GP「地域に根ざし人に学ぶ共生的人間力」運営委員会/委員
- ・東海地震に備えた災害ボランティアネットワーク委員会
- ・9条の会ひょうご

3. 広報事業

会員間の連携と協働の充実を図るとともに、被災地内外の関係団体、支援者への情報発信を行った。

- ・ じゃりみち 1回発行(約 800部)
- ・ HPの充実化については、活動レポートを即日ブログにアップすることにより、HPの更新がほぼ毎日のようにはかれている。東日本大震災後の対応として英語のページもできた。

4. その他

代表の村井が第21回ロドニー賞を受賞し11/30に受賞式があった。また、12/13にはロドニー賞を祝う会を開いて頂き50名近くの方にお越しいただいたことを感謝と共に報告いたします。